

**越後平野における生態系ネットワーク 自然環境活用部会(第5回)**  
**議事要旨**

- 日時：令和6年6月21日（金） 10:00～12:05
- 場所：ビュー福島潟 2F 会議室（Web会議併用）
- 配布資料：
  - ・次第
  - ・出席者名簿
  - ・資料1 第4回自然環境活用部会（開催概要）
  - ・資料2 地域づくりや利活用に関するご意見を踏まえた方策案
  - ・資料3-1 福島潟エリアにおけるモデルプロジェクト
  - ・資料3-2 新潟市北区産業振興課の取組
  - ・資料4-1 新潟市の取組みについて
  - ・資料4-2 新潟大学学外実習報告
  - ・資料4-3 パネル展示場所候補案
  - ・資料4-4 マイマップで紹介する内容案
  - ・資料4-5 学校給食への有機米の提供の取組について
  - ・資料4-6 新潟県環境保全型農業直接支払交付金について
  - ・資料5-1 行動計画（2030）骨子（案）に関する意見照会結果
  - ・資料5-2 自然環境活用における役割分担・関係性
  - ・【参考資料1】 自然環境活用部会設立趣旨、規約及び委員名簿
  - ・【参考資料2】 第4回自然環境活用部会 議事要旨
  - ・【参考資料3】 生息環境検討部会に係る取組

■出席者（敬称略）：

越後平野における生態系ネットワーク推進協議会 第5回自然環境活用部会 出席者名簿

区分	氏名	機関名	所属	役職	会議
					参加方法
委員	磯貝 浩史	(公社)新潟県観光協会		次長	欠席
	大塚 清一郎	新潟日報社	総合プロデュース室	総合プロデュース室長	Web
	河口 洋一	徳島大学	大学院社会産業理工学研究部	准教授	欠席
	木村 直	新潟県生活協同組合連合会		専務理事	○
	関島 恒夫	新潟大学	農学部	教授	○
	玉木 朋人	新潟県商工会連合会		事務局長	欠席
	藤田 美幸	新潟国際情報大学	経営情報学部 経営学科	教授	○
	村山 敏夫	新潟大学	工学部 人間支援感性科学プログラム	准教授	Web
オブザーバー	山田 秀行	新潟市北区観光協会 豊栄商工同友会		会長 副会長	○
	佐藤 安男	新潟県水鳥湖沼ネットワーク		事務局長	○
	中村 淳一	水の駅「ビュー福島潟」		副館長 レンジャー	○
	石井 大輔	TOPPAN株式会社	環境・安全推進部 新潟T	課長	○
	佐伯 和也			係長	○
	土井一心太	阿賀野市観光協会	雁湖白鳥観察舎販売組合	販売組合代表理事	○
	松本 恵幸			販売組合商品開発部長	○
	丸山 孝行	新潟県	土木部河川整備課	事業計画係 副参事	Web
	小林 孝章		農林水産部農産園芸課	生活環境係 副参事	Web
	川上 英明	新潟市	政策企画部	課長補佐	Web
	佐藤 貴光		環境部環境政策課	課長補佐	Web
	小柳 光明	新潟市北区役所	産業振興課	主幹	○
	小山 和也			係長	○
	小竹 憲幸			主査	○
	高澤 悟	新発田市	環境衛生課	課長	○
	池田 厚志	佐渡市	農林水産部農業政策課	トキ・里山振興係 係長	Web
	最上 祥成	環境省 関東地方環境事務所	野生生物課	課長補佐	Web
	新井 孝尚		野生生物課	生息地保護連携専門官	Web
	乙川 昌也	国土交通省 北陸地方整備局	阿賀野川河川事務所	建設専門官	○
	原文宏	応用生態工学会新潟		学会普及・連携委員	Web
竹内 聡	常任幹事			Web	
中野 雅子	常任幹事			Web	
事務局	板倉 舞	北陸地方整備局	河川部 河川計画課	課長	○
	渡辺 洋			建設専門官	○
	今井 孝幸			係長	○
	小林 岳史				○
	佐藤 伸彦	公益財団法人日本生態系協会	生態系研究センター	統括主任研究員	○
	伊藤 絵理子			主任研究員	Web
	落合 はるな			主任研究員	Web
	藤田 旭美			主任研究員	○
桑原 里奈			研究員	○	

## ■議事

### (1) 第4回協議会・第2回自然環境活用部会の報告

- ・ 意見なし

### (2) 地域づくりや利活用に関する方策案

### (3) 福島潟エリアにおけるモデルプロジェクト実証実験

#### オブザーバーA

- ・ 潟の食材の活用展開として、今後調理師学校との連携や、地元飲食店との連携等を検討していく。
- ・ 今年度、新潟市観光コンベンション協会さんが潟料理の取組について国に予算申請したところ、かなり大きな金額が潟料理に出る。新潟市全体の取組になるが、我々も取組のひとつに実を結びつつあるという実感を得ているところ。
- ・ 福島潟の至近公共交通機関のJR 豊栄駅から福島潟までの二次交通が整備されていないということで、愛宕商事さんが、豊栄駅前に従前からあるレンタサイクル事業と併せて電動キックボードを設置した。DHC 酒造さん、ビュー福島潟にも電動キックボードのポートを置き、乗り捨て及び24時間・1泊利用も可能にするなど使い勝手を向上して二次交通を整備し、より福島潟への誘客を増やしていこうという取組が進んでいる。
- ・ 福島潟のモデル事業に関する取組の展開イメージについて、いままで個々でやっていたものが、今回部会の取組、あるいは全体的なブランドビジョンを示すことで徐々に連携をとりだし、点と点が面の観光資源として育ってきた印象。今後こういった取組を北区だけでなく、今日お越しの瓢湖さんや月岡温泉にも広げて、より広域の観光エリアとして認知されるように、北区観光協会としても取り組んでまいりたい。

#### 部会長

- ・ 新潟市が主催した潟フェスについて、予想以上に関心が高かったと肌で感じた。入場者数がすごく多かった中でも、えちごエコネットのブースの来客が多かった。関心のなかった人たちが一歩踏み出すきっかけになったのが、美しい写真やハス・ヒシの実といったエコネットの恵みというのを本当に実感した。

#### オブザーバーB

- ・ 観光で瓢湖に来られた方へのグッズ開発やその場で楽しめるカフェなどを開発してみなさんに楽しんでいただく取組を行っている。それを展開する上で一番大事なのが、瓢湖の環境の保全や、より魅力的な瓢湖の整備方針。観光協会や守る会の方と模索している最中で、阿賀野市だけで考えていてもまともならないところがあったので今回会議に参加させていただいた。利活用の部分では提案できる部分もあると思うし、瓢湖にいるライギョの取り扱いを具体的に教えていただくなど、もしよろしければ勉強させていただきたい。

#### オブザーバーC

- ・ 福島潟食文化ということで、ここでしかない希少価値を提供していきたい。福島潟のインバウンド向け観光誘致の取組に対して、新潟観光コンベンション協会が実施主体の今年度・単年度業務で観光庁から大きな額の補助金の認可が下りた。具体的な内容については今後決定していく。
- ・ 基本的にソフト事業が中心だが、ソフト事業に欠くことができないものであればハードや備品なども

認められるようである。福島潟推進グループ、指定管理者、地域の関係者のみなさまとよく話し合いをしながら進めていかなければならない状況。

#### 委員 A

- ・ 以前、潟来亭で食材をだしていただいた時、非常にいいもので感動し、潜在的な資源であると思った。こういった資源をどんどん表にだしていただきポテンシャルをもっと引き出していただきたいという期待がある。
- ・ 観光につながる資源を利用するために、持続可能性の観点から福島潟でどういった環境を保っていくのか。また、福島潟で十分なのかどうかも含めて検討することが、越後平野の生態系ネットワーク形成に関わる。そういったところをつみあげていくような議論になれば良い。環境と経済が回っていくような仕組みができると、国から交付される額以上の、相当期待されるモデル事業になると思う。
- ・ 資料2の3ページ目の農業、これはトキに向けてやっており、越後平野の生態系ネットワーク形成事業ではガン・ハクチョウが指標種になっている。
- ・ コウノトリについてはまだ指標種に入っていないし、今後も入る可能性はないと思っているが、最近、上越に営巣したというニュースがあった。生態的には上越よりも明らかに下越の信濃川・阿賀野川流域の方がコウノトリにとっては非常に好適な環境だということを勘案すると、数年後にはコウノトリがくるのではないかと思う。
- ・ 大型鳥類の生息環境について農地が非常に重要になってくるので、JAとも連携拡大が必要である。トキやガン・ハクチョウ、コウノトリも視野に入れた協議については、土地改良区や、地方自治体の農業政策部門の行政担当者に加わっていただき、かなり専門的な意見交換をする必要があると思う。そういったところにも広げていただきたい。
- ・ 5ページ ③環境学習について、学校と連携した取組ということで、もうすでに赤塚小学校や葛塚東小学校があがっており、そういったところと連携し、学校外での環境学習も推進していく。また、以前部会に参加しておられた中学校の先生（元 村上市立荒川中学校増田先生）を覚えているか？
- ・ →ご異動に伴い、連絡先が変わり不明である。（事務局）
- ・ 福島潟周辺の中学校に赴任したので、多分また活動できると連絡がきた。増田先生のように、熱量を持っておられ、且つ実際に従事されている方に関わっていただき、学校の状況等も踏まえて連携をする。関東エコロジカル・ネットワークでは、すでに小山市の小学校や徳島の小学校と連携してオンラインでの意見交換会をしている。まずは新潟で同様の授業を行っているような小中高と意見交換をして、より刺激的なネットワークを創っていくのがいいかなと思う。核になる人を決めて動いていくのがいい。
- ・ 自然環境部会では、ガン・ハクチョウについてはいくつかの重要な地域の洗い出しをしている。そういったところのステークホルダーで引っ張ってってくれる方を、部会のオブザーバーで参加していただくなど、どんどん繋げていくのがいいのではないかと。瓢湖や月岡、西蒲区など、いろんな地域が洗い出しされているので、そういったところにもネットワークの広がりを見えつつ広げていっていいのではないかと。

#### オブザーバーD

- ・ 潟フェスは本市の主催で今年2月に開催した。非常に好評で、終わった後のアンケートにも表れた。特に湿地カードが好評で、用意したものはすべて配布された状況。夏に向けて、主要な湿地でカード

を配れるように市の方で準備している。福島潟のものも準備しており、連携しながら進めていきたいと思っている。

#### 部会長

- ・ 連携について、北区の事業の中で福島潟ではこういった観察ができる、佐潟・瓢湖ではこうなど、鳥類の観察も含めていろいろなことができるところがえちごエコネットの取組なのではないかなと思う。

#### 委員A

- ・ 自然再生を経済につなげていくと、治水事業が経済を動かしていくことになるので、越後平野を対象に資源評価をするような視点もあっていいのかなと思う。そこが見えてくると、計画的な生産物の管理ができてくる。

#### 事務局

- ・ 国交省は多自然川づくりの指標種を決める際、希少性やかつて多数生息していたなどを選定理由として取組を行っている。福島潟の話は、潟のめぐみを経済に繋げていくという観点から、潟の食材が住める環境整備も取組まなければならないのかと感じた。それぞれの収穫量や目指すべき環境、外来種の食材（ライギョなど）の扱いなども含めて、環境整備を模索していかなければいけないと感じた。

#### 委員A

- ・ 国交省では、生物多様性保全という観点を河川管理の中で評価されているが、人々の食する資源管理という視点もあっていいのではないのか。生物多様性保全だけだと守りにくいものも、こういう「私にとって必要な資源」という形になると、使うためにも守らなければならないという意識が生まれてくる。

#### 委員B

- ・ 生き物調査のアプリ使って福島潟に来られた方がいた。新潟下越周辺の分布も含めて、どれくらいの方が生き物を見つけているのかというのを調べると、さまざまな資料になるかなと思う。

#### 部会長

- ・ どうやって関心を寄せるかというのが重要になってくる。ゲーム機能を通じて、生き物の見つけ方など豆知識を学ぶといったことが動機づけのひとつになりうる。

#### 委員A

- ・ 市民の自然環境に関する理解が深まれば、潟フェスや他のブースなどにクイズコーナーみたいな形で企画して、どれくらい市民の理解度が深まったか？によって上位の小学生にイベントの中で作ったプロダクトをプレゼントするなど、全部繋げていくといいのかなと思う。

#### オブザーバーA

- ・ 瓢湖ガチャにすごく興味があるのだが、中身は完全にオリジナルなのか？

## オブザーバーB

- ・ もともとグッズ展開するデザインがあったので、それをアクリルキーホルダーに落とし込んでもらった。瓢湖はハクチョウの訴求が一番強いので、ハクチョウをメインにしたデザインでやっている。
- ・ 瓢湖で潟フェスみたいなものを連携して展開してもらえると、より潟や湖の魅力が伝わるのかなと思う。
- ・ 瓢湖は冬のハクチョウというイメージが先行し過ぎているが、夏場はヨシゴイやいろんな小鳥が飛来している。自分たちだけでなく、周りのエコネットの方々と潟フェスなどをやったなかで見せられたら一番いいのかなと思う。
- ・ 今年はハクチョウおじさんが餌付け成功の70周年なので、ハクチョウが飛来してくる前の10月くらいに、なにか広場で見せたい。自分たちだけだと大きな展開ができなかったなので、ぜひエコネットさんともなにかできればありがたいなと思っている

## 委員A

- ・ ヨシゴイなどは一部の人たちにとって非常に大きな価値を感じており、それを目当てに瓢湖に行く人は間違いなく出てくると思う。ハクチョウだけでないという情報をどんどん集めていって、小出しにしながらか発信していくととても魅力的になる。

## オブザーバーB

- ・ 瓢湖のスタッフは最初鳥について何も知らなかったが、興味を持った鳥について知っていき、SNSで発信していただいている。興味をもって発信すると、とても楽しそうな発信になるので、すごくありがたい。ハクチョウ以外にも魅力的な鳥がいるというのが四季を通して伝えられたら良い。

## 部会長

- ・ 資料2の4ページ、広報の取組の中で、SNSが重要になってくるのかなと思う。その中で「学生によるSNSの発信・検討」とあるが、学生とはどこの学生を指すのか？
- ・ →まだ検討していない部分だが、いただいた意見の中にありSNSが重要かと思い、新潟大学さんや、新潟国際情報大学さんとコラボレーションできないかなと思っている。(事務局)
- ・ 理解した。新潟国際情報大学のなかでNUIS TOURISM PROJECTをやっており、新潟県観光協会さんのSNS、インスタなどを公式的な学生のアカウントを利用して国際学科の学生たちが日本語、英語で発信するという取組を行っている。えちごエコネットの公式アカウントの運用なども、学生たちがやっているプロジェクトのなかで運用すると、一つ統一したものができる。
- ・ SNSは発信源が多岐にわたるのが課題で、分析していくのが大事のかなと思う。新潟県観光協会さん、コンベンション協会さんも分析ツールやノウハウなどお持ちだと思うので、情報をいただきたい。SNSを発信するだけでなく、学生たちが発信できるようなプラットフォームを作っていたらいいと思う。

## 委員A

- ・ 資料2の4ページ、推進体制の拡充のところは関東エコネットの連携に限定して記載されているが、指標種がトキという繋がりならば斐伊川水系でも取組まれている。大型鳥類という繋がりでは、コウノトリに関する取組もいろいろな地域で広がっており、そういった生態系ネットワークとの連携も良い。ト

キヤコウノトリなど、広くより上位のネットワークをつくっていただき、さらに環境教育や関係者の交流などにも繋げて行ってほしい。

#### オブザーバーE

- ・ 新潟市の環境政策課が4月末に潟のガイドブック福島潟を発行し、大好評につき一カ月であつという間に無料配布が終わり、あと残り僅か。新潟市でカバーできない、越後平野の情報をガイドブックという形で広報や普及啓発に使えると思う。願わくは、無料か安い価格で展開できるような発想もいかがかないと思ひ提案した。

### (4) 自然環境活用部会全体に係る取組について

#### オブザーバーF

- ・ ラムサール条約都市推進プロジェクトについて、新潟市役所の組織のなかで、いままで潟や湿地の関連の取組を進めている各区役所と環境部、環境政策課を中心とした環境部の取組を連携させると同時に、いままであまり潟や湿地に関わりのなかった部署も一つのチームになって、全庁的に横串をさしながら取組を進めている。

#### オブザーバーD

- ・ 湿地管理者向け国別研修会の新潟開催について、対象者は国内の湿地関係の職員40名程度だが、今現在20名程度の応募があった。まだ余裕があるので、27日まで二次募集をかけている。

#### 委員A

- ・ 新潟大学関東エコロジカル・ネットワーク学外実習に北陸地政さんにも来ていただいたが、コウノトリの事業に関しては、関東地整の取組を参考にしながら越後平野の生態系ネットワークにも活かしていただきたいという思いでお声がけした。地整間の交流も必要だと思うし、それぞれのいい取組をお互いに情報共有できれば良いと思っている。部会や協議会、生態系ネットワーク形成に関わるような河川管理者、農地に関わる人、経済に関わる取組をされている方々がこういった地域の方たちと交流をもつようにするのがいいと思う。広い視野を持った事業の展開に繋がるので、ぜひ交流を持つ場を地整さんに、見学会というか交流会という形でお願ひしたい。

#### オブザーバーG

- ・ 環境保全型農業直接支払交付金について、IPMは令和2年～5年にかけて200ha増えたというところで、生物多様性に貢献できたのかと思っている。今後もこういった補助金を活用しながら生物多様性を進めて参りたい。

#### 委員A

- ・ 佐渡のトキの野生復帰事業では江の設置や畦畔除草が『生きものを育む農法』という認証制度の中に入っていて、非常に効果が高いということから新潟県の地域特任取組として取り組まれるということで、今後期待したい。特に畦畔除草については、除草剤を撒いて除草すると広く畦畔が茶色になるが、佐渡ではトキの餌生物を供給する場ということで畦刈しており、景観的に非常にきれい。そうい

った面からも今後の拡大を期待したい。

- ・ 長期中干について、中干自体はイネの栽培において非常に重要なことと理解しているが、どのタイミングでやるかが非常に重要。水田の生物調査をしていると、6月は一番生物多様性が高く、バイオマスも多い時期であり、そのタイミングで中干されてしまうと生物群集が壊滅してしまう。特に両生類が幼生から幼体に変わる時期なので、タイミングは慎重にご検討いただきたい。
- ・ ガン・ハクチョウ類の重要な餌資源が二番穂の茎の部分であり、秋耕は彼らの餌資源をかなり少なくしてしまう。福島潟周辺ではあまり秋耕されていないため、埒である福島潟と周辺の水田環境のネットワークが形成され、とても重要な生息環境になっている。地球温暖化対策とネイチャーポジティブ、生物多様性保全はいまトレードオフの関係になることが多く、落としどころがとても重要になってくるので、秋耕に関しては将来的な検討をしていただきたいなというお願い。
- ・ 30by30 はみんなが取り組まなければいけないことなので、新潟市の取組として設けつつ、できれば越後平野に関わる地方自治体についても、生態系ネットワーク形成事業でトキ、それからガン・ハクチョウ類等についての潜在的な好適生息地として紹介されるような情報が 30by30 に盛り込まれるといいのかなと思う。

#### オブザーバーG

- ・ 中干については、生物多様性の面からはいろいろあるのかもしれないが、農業というのは『業』であり、収量・品質を確保するために、やるべき時期が決まっているので非常に難しいと思った。中干時期の早い品種から遅い品種までいろいろある。そういった品種を組み合わせることで多様性に十分貢献できるかなと感じた。
- ・ 秋耕については、環境直払い制度を推進しているが、秋耕の実施面積は僅か。水鳥や渡り鳥の餌場の検討・調整ができるくらい、今後さらに推進するようという激励と捉え、取組を活用しながらバランスよく考えていきたい。

#### 委員C

- ・ 新潟市さんからあった湿地関係者向け国別研修会の新潟開催のお話について、日本初開催・ラムサール条約の東アジア地域センター主催ということもあるので、時期が近づき、人数等確定したら、ぜひマスコミにプレスリリース・広報をしていただき、できれば各社取材するような方向にしていだけたらと感じた。こういった取組が新潟でやることを市民に知ってもらうことによって関心を高められると思う。
- ・ 新潟県でも上越市でコウノトリが観測されて、豊岡市からだんだん北の方にきているので、いずれは越後平野というか新潟市にもくるのかなという感じがする。コウノトリがくることによってマスコミも動くし、一つのシンボリックなものとしてトキのいる新潟県にコウノトリもいる、越後平野にも来るということになると、自然環境に関する関心も高まると思うので、コウノトリに関してはこれから注目していきたいと思った。

#### 部会長

- ・ 計画のフレームワークとして『VRIO』というのがあり、価値や希少性を計る。えちごエコネットの中や、新潟市の地域資源は全部兼ね備えている。みんなそれぞれの価値と希少性があることを誰もが認めているが、それをオーガナイズする組織がなかった。そんななかで新潟市の横断的な取組が本当にポ

テンシタルを持っており、そこを全部オーガナイズすることで強いブランディングができるのかなと改めて感じた。せっかくのプロジェクトチーム、計画などをお示しいただいたので、ぜひ実行・実現していただき、えちごエコネットの中でも横断的なプロジェクトになればいいのかなと改めて感じた。

- ・ 阿賀野市さんの有機栽培米の取組について、消費者にとって有機栽培米は値段が高いが「安心安全を食べさせたい」「自分はいいいけど子供には食べさせたい」といった結果があったので、給食などそこから広がるような取組がいいのかなと思う。佐渡のトキのお米が安心だから食べたいというように、越後平野の『ハクチョウが生んだお米』など、指標種が生息できる環境で育てたお米がブランドになっていくのかなと思った。ぜひそういった取組も進めていただきたい。

#### 委員 A

- ・ 有機米は三条市さん阿賀野市さんが取り組んでおられる。佐渡でも認証米の戦略の広報が十分できているわけではない。最近使われている殺虫剤にはネオニコチノイド系成分が使われており、乳児や胎児に母親の母乳を経由し入りこみ、成長してから記憶学習や学習能力の障害、統合失調症が起きやすくなる。人が社会生活を営む上で重要な部分なので、国民に理解を得るためには『安心安全』がキーワードだと思う。生産者としては、多少高いコストを払ってでも、科学的なデータに基づき安心安全を保障し、説明していくことが地域のブランディングになる。ぜひ頑張ってください。
- ・ コウノトリは私の見立てだと、数年後に越後平野にくる。そのとき、阿賀野川の流域、阿賀野市さんの土地がコウノトリにとって重要なエリアになってくる。急に営巣してしまう可能性もあり、コウノトリを中心とした地域づくりになるかもしれないので、こういった構想が阿賀野市さんにとっても必要になってくると思う。
- ・ 生態系ネットワークでもこういう情報を出しながら、新潟市だけでなく、周辺の越後平野に関わる他の市町村さんも同じような動きになればいいなと思う。
- ・ 国交省さんをお願いしたいのが、周辺に巣塔などを立てたらおそらく繁殖の可能性が高まるのではないかと考えている。コウノトリの郷公園から資料をみせていただき、阿賀野川流域の利用状況を知りたい。そうすると、コウノトリ定着に向けて、どの地域が動けばいいのか考えられるので、阿賀野川や信濃川を利用しているという情報があったら、それらを基に、将来的に立ち上げるような青写真を描いてもいい。

#### オブザーバーB

- ・ 講師がしっかりいる組織の中で自分たちがしっかり勉強して、それを阿賀野市に当てはめられればいいのかなと思う。コウノトリも何年前、阿賀野市の羽黒という地域に飛来してきたり、今年もナベツルが阿賀野川に来ていたり、大型鳥類が来るようにはなっている。有機米を笹神地区では精力的に生産していたので、その成果もあるのではないかと感じている。
- ・ 有機米について、安野小学校では実際に月額 120 円でも値が上がるなら現状のままで良いという意見もあった。丁寧な説明と、慣行米との価格格差が埋まるような政策・補助が必要。それに対して、農家さんみんなが「新潟県は有機米でやっていく」という機運になっていくと違うのではないかな。

#### 委員 A

- ・ 情報が不足していると、値段だけで判断される。次の世代を育てるところなので、真剣に受け止める必要がある。

#### オブザーバーB

- ・ 自分たちの生活にかかりきりの世代が多く、地域に興味が及ばない。阿賀野市民でも瓢湖に来たことが無い人がある。
- ・ 農業だけでなく、教育機関や行政も含めて、地域資源の利活用方策の探求をエコネットさんの力を借りても瓢湖で定期的を開催していきたいので、協力していただきたい。

#### 部会長

- ・ 積極的にマスコミなども活用しながら新潟市のブランディングが作られていけばいいのかなと思う。

#### **(5) 行動計画（2023）策定に向けた検討**

- ・ 意見なし

#### **(6) その他**

##### 委員A

- ・ 応用生態工学会の理事会で、来年度9月から10月くらいに、応用生態工学会の全国大会を新潟で開催できないか？というお願いをされた。応用生態工学会では市民向けに公開シンポジウムを開催するのだが、そこで生態系ネットワークを題材にしてもいいのではないか。これから越後平野生態系ネットワーク形成事業が広く市民に理解されて拡大していくようなきっかけになればいいなと思っているので、改めて相談したい。

##### 部会長

- ・ 応用生態工学会の全国大会が新潟県で開催されることによって、えちごエコネットにもつながっていただければいいのかなと思う。
- ・ 本日議論いただいた越後平野における生態系ネットワークが着実に推進していきますよう、委員のみなさまには今後ともご協力のほどよろしくお願いいたします。

以上